

19	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	14102010	GaN系半導体ヘテロ構造における表面界面の原子レベル評価と物性制御	櫻井 利夫(東北大学・金属材料研究所・教授)	B
<p>(意見等)</p> <p>本研究は、GaN系ヘテロエピタクシーを、プロセス、構造、界面物性の視点から原子レベルで解明し、新たなデバイス材料創成に向けた基礎的知見、指導原理の獲得を目的に行われた。</p> <p>無極性のシリコン基板への極性材料の成長、量子ドット、ナノ構造の成長など、研究グループが持つ表面物理のポテンシャルを生かした基礎的成果を得た、と評価できる。しかし、これらの成果は表面物理に偏っており、GaNのドライエッチング、コンタクト形成、新物性発現など、デバイス応用上重要な課題の達成は不十分であった。</p>				
20	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	13852008	熱輸送デバイス/熱電エンジンによる熱回収システム化技術	西尾 茂文(東京大学・生産技術研究所・教授)	B
<p>(意見等)</p> <p>本研究は低温排熱の有効な回収を目的に、(1) SEMOSヒートパイプを用いた熱輸送技術および熱電材料のシート化と集積化の要素の開発、(2) それらの融合とシステム化、(3) 産学共同での標準化、カスタマイズした熱電エンジンシステムの確立、の3つを目的として行われたが、(1) については一定の成果が得られたものの、(2) (3) については当初の目的は達成されないで終わっている。また、本研究に直接関連した成果の公表、論文数も少ない。本要素技術の斬新さ、研究開発の着眼、波及的効果などは高く評価できるものの、システム化が出来ずに終わったことから満足できる結果となっていない。</p>				